## 江戸時代にカモシカを食べていた人びと

江戸時代の本には、カモシカの味やその薬としての効き目が書かれたものもあります。今からおよび 300 年前の 1697 (元禄 10)年に出された『本朝食鑑』のカモシカすなわち「れい羊」のページをみると、角や肉はカゼなどに効き体の筋を強くするということ、肉は軟らかく鹿や猪より優れているため人びとは好んで食べるとあります。また、江戸(今の東京)の町の様子をえがいた『江戸繁昌記』には、肉は薬だということで猪などを食べさせる店があり、「九尾羊(かもしか)」も食べさせたと書かれています。

美身輕, 成以 強用選軍患脚氣者無食經日漸漸而塞肉氣味計甘平無毒無無生治諸風脾 驅遂 微集 神 嚴 地 黄 解 名 魔羊處 村亦無害然本邦有四足之穢而不可犯之, 財 通之亦然世人用皮造管泥其價販於能入與以財務息最少財 通之亦然世人用皮造管泥其價販於能量 中崖而 贯俱走遠害防難之備宇着雅夫 一面 看畫亦如此而接性身輕捷躍獨脚, 對着 味鹹寒無毒生治發明詳于 時 壁 而 毛 柯亦無害然本邦有四足之穢 宿、粗 毛順 两角 姓和 彎曲 深 状聲或 銳夜以角 青色美俗 機自第 痛

文 太田光俊 撮影 瀧川和也

田村香里編『きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス』(三重県総合博物館第15回企画展図録)、 三重県総合博物館、2017年 より